

基礎分野：科学的思考の基盤

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
情報科学 I	非常勤講師	1 年次前期	1 単位／1 5 時間
科目目標			
1. 情報の定義と特徴を理解する。 2. コンピュータリテラシーを理解する。 3. 情報リテラシーを理解する。 4. 情報倫理と法を理解する。 5. ワードプロソフトを用いて文書を作成する能力を習得する。			
教科書		参考文献	
1) 太田勝正、前田樹海：エッセンシャル看護情報学、 医歯薬出版、2020。 2) 杉本くみ子、大澤栄子：30 時間アカデミック Office 2019、実教出版、2020。		1) 中山和弘他：系統看護学講座別巻看護情 報学、医学書院、2021。	
評価方法			
筆記試験 実技試験			
授業計画			
回	単元	授業内容	授業方法
第 1 回 ～ 2 回	看護と情報	1. 看護における情報の特徴と役割	講義 演習
	コンピュータとネット ワーク	1. 情報の定量化 2. コンピュータの基本構成 3. インターネットの仕組みなど	
第 3 回	情報リテラシー	1. 情報収集の方法 2. 情報の価値、信頼性の評価法	
	情報セキュリティ 情報発信について	1. 情報セキュリティについて 2. 情報発信の方法と注意点	
第 4 回 ～ 7 回	情報倫理と法	1. 情報倫理について 2. プライバシーと守秘義務 3. 個人情報保護に関する法 4. 学生の臨地実習における患者情報の取り扱い	
	コンピュータの基本的 な操作	1. コンピュータの基本的な操作を学習する。	
第 8 回	ワードプロソフト演習	1. ワードプロソフトを用いて文書を作成する能力を 習得する。	
	試験		

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
情報科学Ⅱ	非常勤講師	1年次後期	1単位／15時間
科目目標			
1. 表計算ソフトを用いて表やグラフを作成する能力を習得する。 2. プレゼンテーションソフトを用いてスライドを作成する能力を習得する。			
教科書		参考文献	
1) 太田勝正、前田樹海：エッセンシャル看護情報学、医歯薬出版、2020。 2) 杉本くみ子、大澤栄子：30時間アカデミックOffice 2019、実教出版、2020。		1) 中山和弘他：系統看護学講座別巻看護情報学、医学書院、2021。	
評価方法			
実技試験			
授業計画			
回	単元	授業内容	授業方法
第1回～ 5回	表計算ソフト演習	1. 表計算ソフトを用いて表やグラフを作成する能力を習得する。	演習
第6回～ 7回	プレゼンテーションソフト演習	1. プレゼンテーションソフトを用いてスライドを作成する能力を習得する。	
第8回	試験		

科目名	科目担当者	開講時期	単位数/時間数
統計学	非常勤講師	1年次後期	1単位/15時間
科目目標			
1. 統計学の基礎的な理論を理解する。 2. 統計学の基礎理論に基づき、解析方法を理解する。			
教科書		参考文献	
1) 高木晴良：統計学、医学書院、2021.			
評価方法			
筆記試験			
授業計画			
回	単元	授業内容	授業方法
第1回	統計学入門	1. 統計学とは 2. 記述統計 3. 推測統計 4. 調査研究と統計学	講義 演習
第2回	統計データの種類と まとめ方(1)	1. 質的データ 2. 量的データ 3. 質的データのまとめ方・Excelによる単純集計 4. 量的データのまとめ方・Excelによる単純集計	
第3回	統計データの種類と まとめ方(2)	1. 各種グラフの特徴 2. Excelによるグラフ作成 3. 散布図・回帰直線の作成と相関係数の計算	
第4回	確率 確率分布	1. 確率 2. 順列 3. 組み合わせ 4. 正規分布 等	
第5回	母集団・標本と推定 (1)	1. 母集団 2. 標本 3. 偶然誤差と系統誤差 4. 中心極限定理と大数の法則 5. 標本の大きさの検討	
第6回	母集団・標本と推定 (2)	1. 点推定 2. 区間推定 3. 推定のための標本の大きさの検討	
第7回	各種検定	1. 検定とは 2. 検定の手順 3. 1群の標本の検定	
第8回		試験	

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
心理学	非常勤講師	1年次前期	2単位／30時間
科目目標			
1. 心理学が日常生活といかに関わりが深いかを実感する。 2. 地域社会における活動とも、心理学は強く関連していることを知る。 3. 動物も人間も生き物として「動機づけ」られていることを、心理学の視点で理解する。			
教科書			参考文献
サトウタツヤ 渡邊芳之：心理学・入門 心理学はこんなに面白い，有斐閣アルマ.			
評価方法			
宿題提出と筆記試験			
授業計画			
回	単元	授業内容	授業方法
第1回	心理学導入	日常生活で利用されている心理学	講義
第2回～3回	臨床心理学概説	病院や学校などで活用されている心理学	
第4回	人格	性格特徴についての研究と応用	
第5回	社会・コミュニティ	地域社会の役に立つ心理学	
第6回～7回	ライフサイクル	人間の一生を心理学の視点で追う	
第8回～9回	アセスメント	性格、精神症状、異常行動、人間関係などをチェックする方法	
第10回～11回	知覚・認知	視覚や聴覚など、外界からの情報を脳で処理する方略	
第12回～13回	学習・行動	動物にも人間にも備わっている、環境に合わせて生き延びる力について	
第14回	心理学の展望	心理学は今後どのように応用が広がるか？	
第15回	試験	試験実施	

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
教育学	非常勤講師	1年次後期	1単位／15時間
科目目標			
<p>本授業は、教育についての基礎的知識（歴史、思想、制度、内容）を習得し、自らの考えを確立していくための基礎をつくることを目的としています。教育は、生まれたときから老人に至るまで、意識的・無意識的に行われる広い射程をもつ活動です。授業では、個人のもつ教育観を相対化し、「教育とは何か」をあらためて問い直します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育学の諸概念及び教育の歴史について理解する。 ・近現代の代表的な教育家の思想を理解する。 ・日本の教育制度の特徴や課題について自ら考え、意見を述べることができる。 			
教科書		参考文献	
・使用しない。		井藤元編（2020）『ワークで学ぶ教育学〔増補改訂版〕』ナカニシヤ出版。	
評価方法			
・試験（50%）、小レポート（20%）、授業中の取り組み姿勢（30%）で評価します。授業では主体的に学ぶ姿勢を重視します。			
回	単元	授業内容等	授業方法
第1回	教育とは何か	・教育とは何かについて自分の言葉で言語化する。	講義
第2回	教育は何のためにあるか①	・近現代の教育思想について理解する。	
第3回	教育は何のためにあるか②	・日本における教育の目的・目標について理解する。	
第4回	学校はどのような場所か①	・近代以降の学校が有する機能を理解する。	
第5回	学校はどのような場所か②	・近代以降の学校制度に対する批判のなかで登場したオルタナティブ教育について理解する	
第6回	子どもと大人の境界線	・「子ども」という概念が歴史的にどのように形成されてきたかを理解する	
第7回	未来の学校	・テクノロジーの発展によって、これからの学校がどのように変化していくか考える	
第8回	まとめ	試験実施	

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数	
スタディスキル	専任教員 非常勤講師	1年次前期	1単位／30時間	
科目目標				
専門学校で主体的に学ぶための基礎的な知識・技術を習得し、学生としての教養を理解する。				
教科書		参考文献		
1) 看護学生の勉強と生活まるごとナビ, 日本看護協会出版会 2) PT・OTのためのこれで安心コミュニケーション実践ガイド第2版, 医学書院 3) 系統看護学講座別館看護研究, 医学書院		1) 看護職としての社会人基礎力の育て方第2版, 日本看護協会出版会 2) スタディスキル日本大学, https://www.nihon-u.ac.jp/fd-center/uploads/files/20200408104202.pdf		
評価方法				
授業への取り組み（積極的な授業への参加，事前課題の取り組みなど） グループワークディスカッションでの貢献度 グループでの資料の作成から発表・発表資料・質疑応答 レポート（レポートの書式・構成，わかりやすい文章か，考えに説得力があるかなど）				
授業計画				
回	単元	授業内容	授業方法	授業担当
第1回 ～2回	看護専門学校で学ぶ意義	1. オリエンテーション 2. 看護学生として学ぶことの意義 3. 看護学生に求められる能力	講義 演習	専任教員
第3回 ～4回	聴講する力	1. 講義の受け方・マナー 2. テキストの読み方 3. ノートの取り方 4. 予習・復習の方法		
第5回 ～6回	情報を入手する方法	1. 文献検索方法 2. 文献活用方法		
第7回 ～8回	レポートを作成する方法	1. レポートの作成手順 2. レポートの提出方法		
第9回 ～10回	グループディスカッション	1. グループワークとは何か 2. グループディスカッションの目的・方法・役割	講義 演習	非常勤講師
第11回 ～ 第14回	資料を作成する力	1. ディスカッションの結果を発表資料として整理する 2. 聞き手がわかりやすいパワーポイントを作成する		
	表現する力	1. パワーポイントで聴者にわかりやすく発表する 2. 発表を聴く心得 3. 発表会の運営方法と質疑応答		

第15回	まとめ	3年間の看護専門学校の見通しをたて、自らの目標達成に向けてどのような学習課題があるか考え、レポート作成手順に従って取り組む。	演習	専任教員
------	-----	--	----	------

基礎分野：人間と生活・社会の理解

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
社会学	非常勤講師	1年次前期	1単位／15時間
科目目標			
<p>人類の「生」の営みは、地球の周期的な寒冷期と温暖期の繰り返しのもと、人間と自然の物質代謝の循環として、つねに均衡していることで成り立ってきた。人類は過去 4000 年にわたって続いてきた温暖期をとおして、現代の社会生活の基礎になる知識、技術の高度化に努めてきた。しかし、これまでの人間の歴史をたどると、それは飢饉と疫病と戦争の三つの問題をいかに解決するかという、いづれも生命にかかわる重要な問いかけの歴史でもあった。</p> <p>これら三つの問題は、人間として幾世代にもわたる「生」の営みのなかで、現在と未来に向けて問い続けられる課題である。こうした社会課題解決に有意な基礎学問として社会学があり、人間の身体的、精神的、社会的存在構造と自然的、文化的、社会的環境構造を対象とする学問である。現代に生きる私たちは、社会学から人間として「善き生」を営むための学際的資質を育むことが大切である。</p> <p>そこで、医療従事者についても、求められる専門知識や技術の習得だけでなく、それを十分に発揮できる社会的条件や、地域社会の一員としての役割、さらに自身の「働きがい」と「生きがい」などの主体的条件について学習する必要がある。</p>			
教科書		参考文献	
1) 担当者作成の講義資料		米林喜男、渋谷優子：新体系看護学全書基礎科目社会学、メヂカルフレンド社	
評価方法			
筆記試験、レポート			
授業計画			
回	授業内容等	授業方法	
第1回	ホモ・サピエンスとしての人間とは ・実践哲学の祖 アリストテレス 倫理学、家政学、政治学について	講義	
第2回	人間の存在構造と健康問題 ・人間の身体的、精神的、社会的存在構造と自然的、文化的、社会的環境構造を対象とする社会学について		
第3回	「社会のなかの人間」と「人間のなかの社会」 ・アブラハム・ハロルド・マズローの「欲求の5段階説」		
第4回	国際社会と日本社会の変化 ・これまで70年間の政治、経済、文化の変化がもたらした課題は何か？ ・私たちを取り巻く社会課題を探る		
第5回	地域社会の構造的変化と地方創生 ・少子高齢社会における地域社会のあり方 ・2040年の消滅可能性都市の現状と課題 (石川県珠洲市の例)		
第6回	地域医療のあり方と看護師の役割 ・保健—医療—福祉の連携(コモンズという考え方)		
第7回	コロナパンデミック終息後の社会について ・社会観のパラダイムシフト		
第8回	最終講義(総括) ・論述試験		

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
生活科学	非常勤講師	1年次前期	1単位／30時間
科目目標			
1. 生活に関連する事象について科学的に検証し、生活に関わる基本的知識を理解する。 2. 科学技術の発達により便利で快適になった生活とそれに伴う様々な社会問題に目を向け、健康で豊かな生活とは何かを自ら考え、行動につなげられるようにする。			
教科書		参考文献	
配布資料の活用			
評価方法			
筆記試験、レポート (100%)			
授業計画			
回	単元	授業内容	授業方法
第1回	生活科学とは	1. 生活科学とは 2. SDGs	講義
第2回～ 第4回	経済と生活	1. 消費と廃棄 2. 家庭経済 3. 消費者問題 4. 契約（契約と解約・解除） 5. 決済方法 6. 消費者の権利と債務 7. 生活情報の活用	
第5回～ 第10回	衣生活	1. 被服の機能 2. 被服の材料 3. 被服の構成 4. 被服の管理	
第11回 ～ 第14回	住生活	1. 気候風土と住居の特徴 2. 快適な住空間 3. ライフスタイルと住居 4. 住居の管理 5. 住居の安全	
第15回	試験		

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
人間関係論	非常勤講師	2年次前期	1単位／30時間
科目目標			
1. 自己の理解を深め、他者を理解しようと努める。 2. 人間関係の中で、自己と他者間の影響や行動の仕組みを理解し、コミュニケーションについて理解する。 3. 身近な人間関係（家族、夫婦、親子など）について考察する。			
教科書		参考文献	
なし			
評価方法			
レポート			
授業計画			
回	授業内容等	授業方法	
第1回	自己理解	講義 演習	
第2回	価値観		
第3回	自我構造と自我状態		
第4回	ストロークの法則		
第5回	交流パターンと時間の構造		
第6回	コミュニケーションの基本概念		
第7回	非言語的コミュニケーション		
第8回	自己を表現する		
第9回	アサーション		
第10回	対人関係と人間観		
第11回	カウンセリングの基本と傾聴		
第12回	家族関係と家族援助		
第13回	夫婦関係、パートナーシップ		
第14回	親子関係、家族の国際比較		
第15回	レポート作成		

基礎分野：人間と生活・社会の理解

科目名	科目担当者	開講時期	単位数/時間数
ソーシャルスキル	専任教員	1年次前期	1単位/15時間
科目目標			
1. コミュニケーションの重要性が理解できる 2. あいさつをする 自己紹介する 3. 話すスキルと聴くスキル 4. 相手を傷つけないように上手に断る 5. 感情をコントロールするスキル 6. 対人葛藤と向き合い、主張的に解決する (うまく問題を解決するスキル)			
教科書			参考文献
1) 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学②、医学書院. 2) PT・OTのためのこれで安心コミュニケーション実践ガイド第3版、医学書院. 3) ナースのためのマナー&接遇術、中央法規			
評価方法			
筆記試験			
授業計画			
回	単元	授業内容	授業方法
第1回	コミュニケーションの意義と目的 「挨拶」の重要性	コミュニケーションとは コミュニケーションの構成要素と成立過程 「なぜ、挨拶をするのか？」 挨拶をしてみよう！	講義 演習
第2回	「他己紹介」 「接遇とは」	他己紹介 (自身の事を伝える・相手の事を理解する) 言葉遣い を考えながら、お隣さんを紹介する (伝える力) 他者の発表を 聞く姿勢 ！→発表する人の身になって聞く (接遇)	講義 演習
第3回	社会人のマナーとコミュニケーション	「挨拶」は自分から発信する (日常の自身の言動は?) 「 第一印象 」の重要性	講義 演習
第4回	コミュニケーション力を育もう	人に受け入れられるための「4つの心の窓」 伝える力 (言ったつもりでも受け入れられない?) みる力 (視覚情報から見える非言語コミュニケーション) きく力 (傾聴: 受容・共感・自己一致)	講義 演習
第5回	医療現場のコミュニケーションスキル①	コミュニケーションスキルとは? 自分も相手も大切にコミュニケーションスキル (アサーティブな言い方)	講義 演習
第6回	医療現場のコミュニケーションスキル②	医療面談にかかせない ラポール (信頼関係) スキル ・ミラーリング ・ペーシング ・バックトラッキング ・あいづち、うなづき ・Iメッセージ ・オープンクエッション ・クローズドクエッション	講義 演習
第7回	自己理解	肯定的な自己概念 の重要性 自身の長所を書き出す 日常の言動を振り返る (肯定的な言い方) エゴグラム診断にて自身の 自我状態 を知る	講義 演習
第8回	まとめ 筆記試験 (60分)	これまでの振り返り (尊敬する人・ソーシャルスキル習得の感想)	

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
英語 I	非常勤講師	1 年次前期	1 単位／30 時間
科目目標			
健康に関する話題について、英語を聞いたり話したりし、英語で積極的にコミュニケーションをとろうとする態度を養う。			
教科書		参考文献	
Bert McBean : HealthTalk Health Awareness & English Conversation、New Edition、Macmillan Language House、2019.		英和辞典、和英辞典等	
評価方法			
筆記試験、speaking test			
授業計画			
回	授業内容等	授業方法	
第 1 回	You Can Live to be a Hundred (Lesson1)	講義 演習	
第 2 回	Ten Ways to Prevent Cancer (Lesson2)		
第 3 回～ 4 回	Smoking Tobacco Is Dangerous (Lesson3)		
第 5 回	The Environment and Your Health (Lesson4)		
第 6 回	Exercise for Good health (Lesson5)		
第 7 回	Healthy Food for a Healthy Body (Lesson6)		
第 8 回～ 9 回	Alcohol Can be Dangerous (Lesson7)		
第 10 回 ～ 11 回	Stress Can Ruin Your Health (Lesson8)		
第 12 回 ～ 13 回	Obesity is a Bad Thing (Lesson9)		
第 14 回 ～ 15 回	Review and Final Exam		

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
英語Ⅱ	非常勤講師	2年次後期	1単位／30時間
科目目標			
1. 医療の現場で実際に使われている英会話を理解する。 2. 医学英語を理解する。			
教科書		参考文献	
Bert McBean : HealthTalk Health Awareness & English Conversation、New Edition、Macmillan Language House、2019.		英和辞典、和英辞典等	
評価方法			
筆記試験、speaking test			
授業計画			
回	授業内容	授業方法	
第1回	1) Class Logistics – Health Nurse Vocal Home work / Review	講義 演習	
第2回	2) Healthy Lifestyle – nurse patient		
第3回	3) Vital signs / Nurse patient Uhit6		
第4回	4) Diet 1 Nurse – patient Questions Answer		
第5回～ 6回	5) Nurse – patient Pain descriptions / Intensity		
第7回～ 8回	Patient interview		
第9回	Speaking test		
第10回 ～11回	Medical History interview		
第12回 ～13回	Final Exam Review Vital Signs / medical History / pain end		
第14回 ～15回	Oral Interview Exam		

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
体育 I	非常勤講師	1 年次前期	1 単位／1 5 時間
科目目標			
<p>(1) これまでのスポーツ・運動に関する活動を整理することで、これからのスポーツ・運動活動との向き合い方を考え、実践する力を身に着ける。</p> <p>(2) 個人のできる運動を中心に学修することで、日常的なスポーツ・運動が実践できる力を身に着ける。</p>			
教科書		参考文献	
なし		なし	
評価方法			
出欠状況、レポート、授業態度			
授業計画			
回	授業内容等		授業方法
第 1 回	<p>これまでのスポーツ・運動活動 スポーツ・運動活動を振り返る これからのスポーツとのかかわり方を考える</p>		講義 実技
第 2 回	<p>身近なスポーツ活動 (1) ウォーミングアップとクーリングダウンの必要性 ストレッチング</p>		
第 3 回	<p>身近なスポーツ活動 (2) 正しいウォーキングとジョギングの方法</p>		
第 4 回	<p>身近なスポーツ活動 (3) ウォーキングの実践 (学外：4 km のウォーキング)</p>		
第 5 回	<p>トレーニング (1) 自分の体重を利用したトレーニング</p>		
第 6 回	<p>トレーニング (2) 有酸素運動としてのダンス</p>		
第 7 回	<p>縄跳び いろいろな跳び方を体験する</p>		
第 8 回	<p>まとめ (レポート作成) 今後の自分のスポーツ・運動生活をデザインする。</p>		

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
体育Ⅱ	非常勤講師	2年次後期	1単位／15時間
科目目標			
<p>(1) 集団（チーム）スポーツを通じ、個人スポーツとは異なる楽しさを学ぶ。</p> <p>(2) 他者と協力することでチームとしての目的を達成することを学ぶ。</p> <p>(3) 個人の環境に応じたスポーツ・運動が選択できる力を涵養し、生涯にわたり豊かなスポーツ生活を営む力を身に着ける。</p>			
教科書		参考文献	
なし		なし	
評価方法			
出欠状況、レポート、授業態度			
授業計画			
回	授業内容等	授業方法	
第1回	集団スポーツの特徴と必要性 ドッチビー（もしくはドッジボール）	講義 実技	
第2回	バドミントン（1） 基本的プレイの練習とルールを学ぶ		
第3回	バドミントン（2） ダブルス方式でのリーグ戦（2）		
第4回	バドミントン（3） ダブルス方式でのリーグ戦（3）		
第5回	ビーチボール（もしくはソフトバレーボール）（1） 基本的プレイの練習とルールを学ぶ		
第6回	ビーチボール（もしくはソフトバレーボール）（2） リーグ戦（1）		
第7回	ビーチボール（もしくはソフトバレーボール）（3） リーグ戦（2）		
第8回	まとめ（レポート作成） 個人スポーツ（体育Ⅰ）とチームスポーツ（体育Ⅱ）、それぞれの長所・短所をまとめ、生涯スポーツという視点から自分のスポーツ生活をデザインする。		